

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム 清水の里

目標達成計画書

作成日: 平成 27 年 9 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	自己番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	昨年度に看取り介護を行い、職員の介護技術と意識の高揚に繋げているが、今後の終末期の介護の在り方をマニュアル化し、家族のケアも含めた看取り支援に取り組んでいく。	看取り介護は、職員の対応力の変化や、家族の協力、協力医療機関の医師との連携がカギであるので、管理者が調整をうまく行い、万全の態勢で、利用者が、最後まで笑顔で暮らせる終末期の支援に取り組んでいく。	12ヶ月
2		グループホームの今後の在り方について	開設当初の利用者の入居条件は、日常生活が出来て、共同生活の出来る認知症の方であったが、近年は、看取り介護もグループホームで支援するようになり、現在の職員体制で、サービスの質を維持しながら、介護サービスが出来る体制について検討していく。	職員の介護に対する意識を高め、外部研修会に職員の経験や、やる気に合わせて交代で参加して貰い、職員のチーム介護と、介護力を向上させて、利用者や家族が安心して、介護サービスが受けられる環境を整えていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。